



PHOTO
GALLERY
KOUHOKU
MODEL HOUSE



1995年



2016年

「住まいとは？」を 伝え続けて。

今から22年前の春、神奈川県港北ニュータウンに新しい住宅展示場が誕生し、スウェーデンハウスを含む27棟のモデルハウスが一斉にオープンしました。

爽やかな水色の外壁、リビングに置かれた一対の真っ赤なキュリオケースにグリーンソファ…元駐日スウェーデン大使夫人のコーディネートによる北欧スタイルのインテリアは、当時の日本ではとても斬新な美しさで、訪れる人々の目を楽しませました。また、構造や間取りにおいてもそうでした。広い家事スペースやキッチン、家族の触れ合いや趣味の時間をもっと楽しめるように設けられた開放的なファミリールーム、窓際でも暖かいサンルーム…高気密・高断熱性能が可能にするライフスタイルの提案は、創業当時から今に至るまで一貫して変わらない、スウェーデンハウスのこだわりです。

スウェーデンの住宅から学んだ「家」に対する考え方、家族の在り方、真の快適環境、当時は「日本でそこまで必要か」と言われることもあった高気密・高断熱性能も、次第にその快適さが証明され、今ではどの住宅メーカーも、その言葉を掲げるようになりました。

阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件があった1995年。その年に生まれた子どもが22歳の大人になるまでの年月、この港北モデルハウスは多くの方々に、「本当に快適な暮らしとは？」ということ、伝え続けてきたのです。

「港北モデルハウス」

羨望の22年を写す。

愛され続けて深くなる美しさ、そして心地よさ。





歳月こそが、宝物になる。

気が付くと、この港北モデルハウスは、住宅展示場内で最年長というだけでなく、全国にあるスウェーデンハウスのモデルハウスの中でも、一番古い存在となっていました。今春、ついにその役割を終えることになりましたが、歳月を味方につけることのできる家だからこそその美しさは、ご覧いただいている通りです。

人も、家も、歳をとります。しかし、色褪せない価値を持ち、時の流れがその本質に磨きをかけてくれるのであれば、歳をとっていくことほど、誇らしいことはありません。10年後、20年後の暮らしが楽しみになる家——そうみなさんに言っていただくことが、これからも変わらない、スウェーデンハウスの誇りなのです。



時代や流行に左右されない。

住宅展示場に建つ様々なモデルハウス。その寿命は5〜7年程度とされています。もちろん、耐久性の問題ではありません。5〜7年も経つと、流行のデザインや、時代に合った間取りではなくなってきて、新商品を出すことになるのです。メーカー側の「こんな家が売りたい」という考え方（企業姿勢）が変わることもあります。また、ここ数十年は、環境問題が深刻化する中で、住宅の省エネ性も重要視されてきました。国の示す住宅の省エネ基準が短い期間でどんどん更新されるため、その基準に合わせて商品を作り変えていく必要があります。

この22年の間、周りに建つモデルハウスは全て壊され、建替えられました。中には2回、3回と変わったものもあります。しかし、私たちのモデルハウスは2度の改装を経ながら、当時のままそこにありました。流行に左右されることなく、古びることなく、逆に味わいを深めていくその表情を確かめに、たくさんのお客様が足を運び続けてくださいました。飴色に変わっていくパイン材の美しさ、風格を増す佇まい、リフォームをしながら家族とともに育っていきける柔軟性…。オーナー様が訪ねてこられることも多く、「我が家も早くこんな風にならないかしら」と、そんな言葉をいただくこともありました。

次第に厳しくなっていく日本の住宅の省エネ基準に対しても、スウェーデンハウスは既に創業当時からクリアできる余裕の性能を備えていたのですから、翻弄されることはありません。「売れる家」ではなく「住んで欲しい家」をつくりたい。その姿勢を崩さずに、「本当に快適な暮らしとは？」ということを最初からしっかりと見据え、向き合い続けてきたからです。



スウェーデンハウスのモデルハウスは、どの家にも築年数によってそれぞれの美しさがあります。お出かけの際には是非チェックしてご覧いただければと思います。

スウェーデンハウス モデルハウス [検索](#)